

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月8日

上場取引所 東大

上場会社名 日本山村硝子株式会社

コード番号 5210 URL <http://www.yamamura.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山村 幸治

問合せ先責任者 (役職名) 総務経理部長

(氏名) 水田 好彦

TEL 06-4300-6000

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	56,942	△0.9	3,473	111.0	3,960	120.5	3,096	236.6
21年3月期第3四半期	57,485	—	1,645	—	1,795	—	919	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	29.47	—
21年3月期第3四半期	8.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	95,955	51,431	53.6	489.13
21年3月期	92,934	48,843	52.5	464.44

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 51,389百万円 21年3月期 48,803百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
22年3月期	—	3.50	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	4.00	7.50

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,600	△1.1	3,000	100.1	3,350	112.5	2,500	375.3	23.79

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、4ページ「定性的情報・財務諸表等」4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	111,452,494株	21年3月期	111,452,494株
---------------------	-------------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	6,390,634株	21年3月期	6,372,491株
-----------	-------------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	105,069,364株	21年3月期第3四半期	110,439,623株
----------------------	-------------	--------------	-------------	--------------

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

上記の予想に関連する事項は、4ページ「定性的情報・財務諸表等」3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間のわが国経済は、輸出や生産などに回復の動きが見られたものの、設備投資の減少、雇用環境の悪化を背景に、個人消費は低迷し、景気は依然として低調に推移しました。

このような中、当社グループでは、3ヵ年の中期経営計画「Evolution—進化—」の最終年度として、既存事業の競争力強化、新規事業の強化と立上げ、および国際事業のさらなる展開、の3つの基本方針のもと、総仕上げの取り組みを行ってまいりました。

① ガラスびん関連事業

ガラスびん需要の減少により業界出荷量は前年同期比2.5%減少し、当事業のセグメント売上高は前年同期比2.2%の減収となりました。しかし、原料費、燃料費、労務費、減価償却費等のコスト低減により損益は大きく改善し、セグメント営業利益は230.1%の増益となりました。

② プラスチック容器関連事業

TENキャップ（飲料用耐熱ペットボトル向けキャップ）が前年同期の低迷から回復し、堅調な出荷を続けました。しかし、ペットボトルの販売は夏場以降厳しい状況が続き、セグメント売上高は前年同期比2.4%の減収となりました。一方、原料費や動力費、減価償却費等の減少および生産効率の向上等により、セグメント営業利益は254.8%の増益となりました。

③ 物流関連事業

新規顧客の開拓を進めましたが、売上高としては前年同期の水準に届かず、セグメント売上高は前年同期比0.9%の減収となりました。しかし不採算部署の改善が進み、セグメント営業利益は25.8%の増益となりました。

④ ニューガラス関連事業

電子部品、デジタル家電関係の需要の持ち直しを背景に、当事業の出荷は前年下半期の落ち込みから回復しました。主力のプラズマテレビ用粉末ガラスについては販売価格が軟調に推移したものの、コンデンサ用粉末ガラスの回復や、太陽電池用粉末ガラスの伸長等により、セグメント売上高は前年同期比5.3%の増収、セグメント営業利益は5.7%の増益となりました。

⑤ その他事業

エンジニアリング事業におけるガラスびん生産設備の販売増加により、セグメント売上高は前年同期比40.0%増収となりましたが、粗利益率の低下により98.8%の減益となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の連結売上高は56,942百万円（前年同期比0.9%減）と減収とはなりませんが、連結営業利益は3,473百万円（前年同期比111.0%増）と増益となりました。

海外関連会社の業績は好調に推移しており、持分法による投資利益は694百万円（前年同期は314百万円）を計上しました。なお、一昨年に株式取得したサンミゲル山村パッケージング・コーポレーションおよびサンミゲル山村パッケージング・インターナショナルについて、当第3四半期に取得価額が最終確定したことに伴い、当第3四半期累計期間の持分法による投資利益を修正しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の連結経常利益は3,960百万円（前年同期比120.5%増）となりました。

また、特別利益に、旧本社土地の売却による固定資産売却益1,028百万円を計上し、連結四半期純利益は3,096百万円（前年同期比236.6%増）と大幅増益となりました。

国際事業展開として、当第3四半期累計期間に次の投資を行いました。

- * これまで出資比率が50%であったプラスチックキャップ等の製造・販売会社である展誠（蘇州）塑料製品有限公司を、完全子会社としました（平成21年6月）。
- * 経済伸長著しい東南アジア市場における包装資材販売の営業基盤を構築するため、タイ大手飲料メーカーであるオソサファ社との合弁会社山村インターナショナル・タイランド（出資比率74%）を設立しました（平成21年10月）。
- * 持分法適用関連会社であるサンミゲル山村パッケージング・インターナショナル（SMYPIL）がオーストラリア最大の容器商社コスパック社のホールディングカンパニーへ資本参加（株式65%を取得）しました。SMYPIL社が増資にてその資金を調達することに伴い、当社もSMYPILへの出資比率（35%）に応じた増資引受けを行いました（平成21年12月）。

これらの投資を活かして、引き続き海外市場における事業展開を積極的に推進してまいります。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3,020百万円増加しました。これは、商品及び製品在庫が2,215百万円、有形固定資産が1,474百万円減少したものの、現預金が2,295百万円、売上債権が2,488百万円、関係会社株式が新規投資による取得や持分法投資利益等により1,930百万円増加したためです。

負債については、借入金の純減482百万円がありました。未払法人税等の増加1,202百万円等により、432百万円の増加となりました。

純資産については、四半期純利益により利益剰余金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ2,587百万円の増加となりました。自己資本比率は1.1ポイント上昇して53.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末の現金及び現金同等物（以下、資金という）は、前連結会計年度末より2,295百万円増加して10,497百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローでは、売上債権の増加がありましたが、たな卸資産の減少があり、また税金等調整前四半期純利益に減価償却費や有形固定資産売却益等を調整した結果6,654百万円の資金増加（前年同期は3,426百万円の資金増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、有形固定資産の売却による収入がありましたが、有形固定資産の取得による支出や関係会社株式の取得による支出等により、3,074百万円の資金流出（前年同期は3,495百万円の資金流出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、長期借入金の返済による支出のほか、配当金の支払支出等により、1,292百万円の資金流出（前年同期は1,710百万円の資金流出）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期における通期の業績予想につきましては、平成21年11月5日に公表しました業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①会計処理基準に関する事項の変更

(重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準の変更)

在外関連会社の損益については、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より、決算時の為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、前第3四半期連結会計期間と当第3四半期連結会計期間で、在外関連会社の損益の換算方法が異なっております。

なお、前第3四半期連結会計期間および前第3四半期連結累計期間に変更後の換算方法を適用した場合、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

また、セグメント情報に与える影響はありません。

②表示方法の変更

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において区分掲記していた自己株式の増減額（当第3四半期連結累計期間△4百万円）は、重要性が低下したため、当第3四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローのその他に含めて表示しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,497	8,202
受取手形及び売掛金	21,180	18,692
商品及び製品	4,978	7,193
仕掛品	326	529
原材料及び貯蔵品	1,654	1,544
その他	1,008	993
貸倒引当金	△40	△44
流動資産合計	39,606	37,110
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,251	10,713
機械装置及び運搬具(純額)	9,758	11,396
工具、器具及び備品(純額)	837	913
土地	11,143	11,290
建設仮勘定	367	519
有形固定資産合計	33,358	34,833
無形固定資産		
	337	424
投資その他の資産		
投資有価証券	3,062	2,928
関係会社株式	15,194	13,263
その他	4,465	4,495
貸倒引当金	△69	△121
投資その他の資産合計	22,651	20,566
固定資産合計	56,348	55,824
資産合計	95,955	92,934

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,724	6,974
短期借入金	4,808	6,090
未払法人税等	1,338	135
引当金	305	571
その他	3,392	3,167
流動負債合計	16,568	16,938
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	19,100	18,300
退職給付引当金	3,313	3,522
特別修繕引当金	4,002	3,711
その他	539	618
固定負債合計	27,955	27,152
負債合計	44,523	44,090
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,074	14,074
資本剰余金	17,300	17,300
利益剰余金	25,707	23,294
自己株式	△1,212	△1,207
株主資本合計	55,871	53,462
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	167	60
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	△4,649	△4,718
評価・換算差額等合計	△4,482	△4,658
少数株主持分	42	40
純資産合計	51,431	48,843
負債純資産合計	95,955	92,934

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	57,485	56,942
売上原価	47,234	44,798
売上総利益	10,251	12,143
販売費及び一般管理費	8,605	8,670
営業利益	1,645	3,473
営業外収益		
受取利息	10	2
受取配当金	71	49
持分法による投資利益	314	694
その他	310	260
営業外収益合計	705	1,006
営業外費用		
支払利息	323	312
その他	232	207
営業外費用合計	555	519
経常利益	1,795	3,960
特別利益		
固定資産売却益	—	1,028
貸倒引当金戻入額	5	—
役員賞与引当金戻入額	2	—
特別利益合計	7	1,028
特別損失		
固定資産廃棄損	163	67
製品補償損失	65	—
たな卸資産評価損	62	—
その他	—	8
特別損失合計	291	75
税金等調整前四半期純利益	1,512	4,913
法人税、住民税及び事業税	344	1,428
法人税等調整額	246	385
法人税等合計	590	1,813
少数株主利益	1	3
四半期純利益	919	3,096

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,512	4,913
減価償却費	4,153	3,760
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	△1,028
売上債権の増減額 (△は増加)	△882	△2,699
たな卸資産の増減額 (△は増加)	78	2,307
仕入債務の増減額 (△は減少)	△682	△149
その他	△235	△176
小計	3,943	6,926
利息及び配当金の受取額	134	95
利息の支払額	△248	△240
法人税等の支払額	△403	△126
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,426	6,654
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,834	△2,614
有形固定資産の売却による収入	—	1,318
関係会社株式の取得による支出	—	△1,209
関係会社株式の売却による収入	640	—
関係会社出資金の払込による支出	—	△586
その他	△302	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,495	△3,074
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	578	18
長期借入れによる収入	1,000	1,700
長期借入金の返済による支出	△1,500	△2,200
自己株式の増減額 (△は増加)	△993	—
配当金の支払額	△667	△684
その他	△127	△125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,710	△1,292
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,781	2,295
現金及び現金同等物の期首残高	9,265	8,202
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,484	10,497

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

	ガラス びん関 連事業 (百万円)	プラス チック 容器関 連事業 (百万円)	物流関 連事業 (百万円)	ニュー ガラス 関連事 業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	35,160	11,111	7,807	2,265	1,141	57,485	—	57,485
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	0	103	—	1	104	(104)	—
計	35,160	11,111	7,910	2,265	1,142	57,590	(104)	57,485
営業利益	508	246	252	569	68	1,645	—	1,645

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	ガラス びん関 連事業 (百万円)	プラス チック 容器関 連事業 (百万円)	物流関 連事業 (百万円)	ニュー ガラス 関連事 業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	34,385	10,839	7,733	2,385	1,598	56,942	—	56,942
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	122	—	36	159	(159)	—
計	34,385	10,839	7,855	2,385	1,635	57,101	(159)	56,942
営業利益	1,678	873	317	602	0	3,473	—	3,473

(注) 事業区分の方法

製品、サービスの種類・性質の類似性に基づいて区分しております。

b. 所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

当社は本邦以外の国または地域に所在する連結子会社がないため、該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

当社は本邦以外の国または地域に所在する連結子会社がないため、該当事項はありません。

c. 海外売上高

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。